

バックアップ材およびボンドブレイカー

バックアップ材およびボンドブレイカーは、シーリング材の性能を十分に発揮させるための重要な副資材です。

1 機能

- ①シーリング材を目地の底部に接着させず、動的追従性を十分に発揮させる。
- ②シーリング材の充てん深さを調整し、均一な接着面を確保する。
- ③底のない目地において、シーリング材を充てんする際の受けとする。

2 種類

- ①バックアップ材はポリエチレン製の発泡体が多く使用されています。他に合成ゴム製成型品が使用されますが、シーリング材と接着せず、また、シーリング材に悪影響を与えないものを選定することが重要です。シーリング材と接着しない事を必ず事前にご確認頂き、ご使用願います。下記の表は代表的な目地に多く用いるバックアップ材の例を示します。

目地の種類	バックアップ材の種類	バックアップ材幅
コンクリート目地	角型・丸型ポリエチレン独立気泡発泡体	目地幅×1.1~1.3
金属目地	角型ポリエチレン独立気泡発泡体	目地幅×1.1~1.2
ガラス目地	ポリエチレン独立気泡発泡体	目地幅×1.1~1.2

EPTゴムおよびクロロプレンゴム等がバックアップ材として使われている場合には、シーリング材に悪影響を与えず、かつシーリング材と接着しないことが確認されたものを用いてください。ノリ付バックアップ材の場合は、目地幅より1~2mm小さいものを用いてください。

- ②ボンドブレイカーにはシリコンテープ、ポリエチレンテープおよびテフロンテープなどがありますが、シーリング材の種類によって適・不適（接着する）がありますので、選定に当たっては必ず事前確認を実施してください。下記の表は代表的なシーリング材に適するボンドブレイカー例です。

シーリング材の種類	ボンドブレイカーの種類	ボンドブレイカーの幅	備考
シリコン系	ポリエチレンテープ	目地幅×0.8~0.9	シリコンテープは接着する場合がある
変成シリコン系	ポリエチレンテープ	目地幅×0.8~0.9	シリコンテープは接着する場合がある
ポリサルファイド系	シリコンテープ・ポリエチレンテープ	目地幅×0.8~0.9	—————
ポリウレタン系	シリコンテープ・ポリエチレンテープ	目地幅×0.8~0.9	—————

ハマタイト積算参考資料

シーリング材の使用量は、目地の体積により算出します。

$$\text{シーリング材使用量 (L)} = \text{目地幅 (mm)} \times \text{目地深さ (mm)} \times \text{目地長さ (m)} \times (1 + \text{ロス率} / 100) \div 1,000$$

シーリング材1L当たりの概算施工メーター数

目地幅mm 目地深さmm	6	8	10	15	18	20	25	30	40
6	23.1	17.4	13.9						
8		13.0	10.4	6.9					
10			8.3	5.6	4.6	4.2			
12				4.6	3.9	3.5	2.8		
15					3.1 *	2.8	2.2	1.9	
20							1.7 *	1.4	1.0
25								1.1 *	0.8 *

ロス20%折り込み数量ですので、状況によって増減願います。 ※ノンワーキングジョイントに限定されます。

プライマーの使用量は、塗布面積に標準塗布量をより算出します。(標準塗布量:平滑面100ml/m²、多孔質面200ml/m²)

$$\text{プライマー使用量 (ml)} = \text{目地深さ (mm)} \times 2 \div 1,000 \times \text{目地長さ (m)} \times (1 + \text{ロス率} / 100) \times \text{標準塗布量 (ml/m}^2\text{)}$$

プライマー1缶 (500mL) 当たりの概算施工メーター数 (上段:平滑面 / 下段:多孔質面)

目地幅mm 目地深さmm	6	8	10	15	18	20	25	30	40
6	320	320	320						
8		240/120	240/120	240/120					
10			192/96	192/96	192/96	192/96			
12				160/80	160/80	160/80	160/80		
15					128 / 64 *	128/64	128/64	128/64	
20							96/48 *	96/48	96/48
25								76/38	76/38

2面接着の場合。ロス30%折り込み数量ですので、状況によって増減願います。

※ノンワーキングジョイントに限定されます。